



2020年3月期

決算説明会資料

2020年5月

菱電商事株式会社

- 1. 当社グループの概要**
- 2. 業績・財務の状況**
- 3. 今後の経営戦略**



1. 当社グループの概要



当社の概要

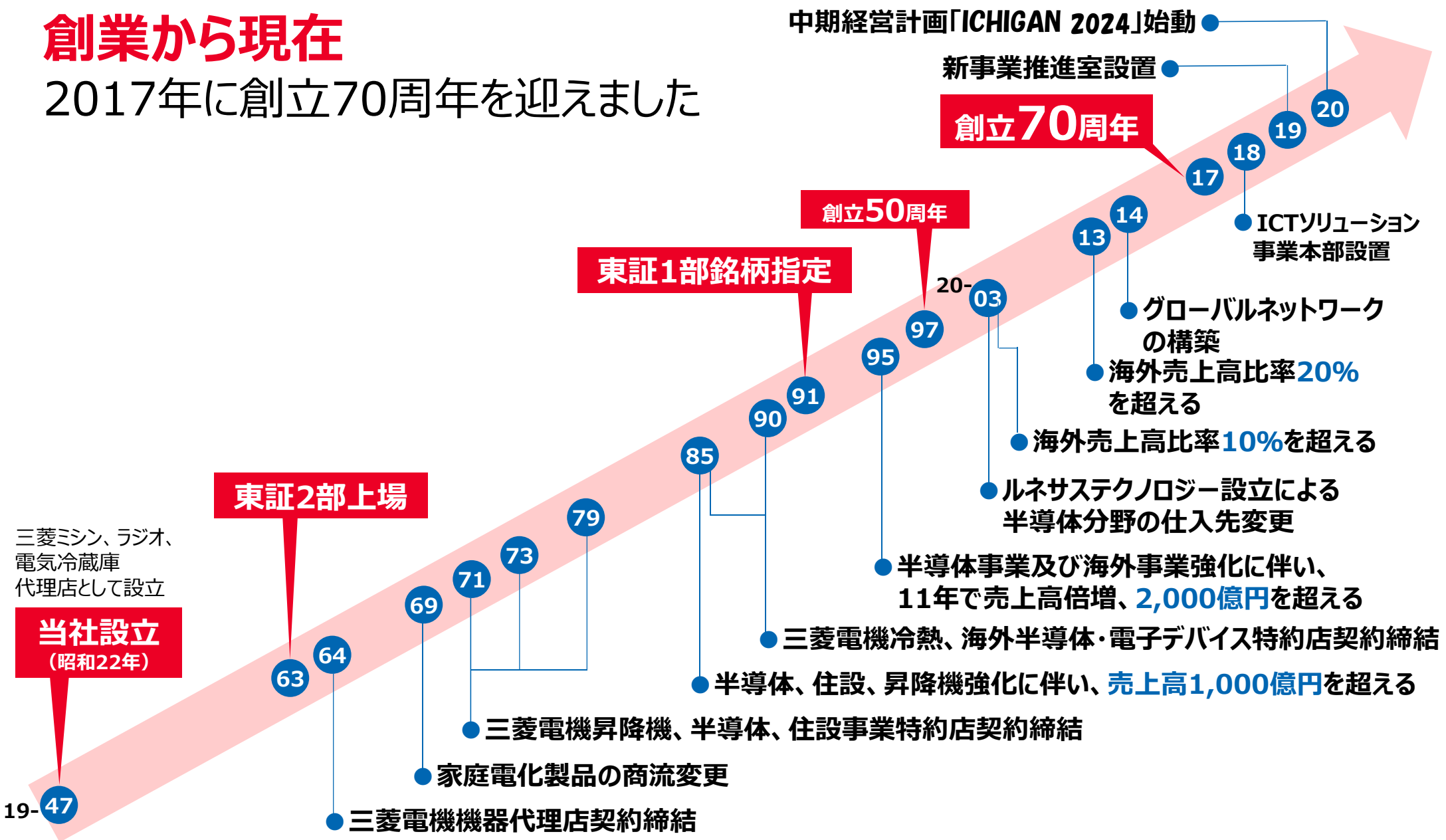


商号	菱電商事株式会社 (Ryoden Corporation)
設立	1947 (昭和22) 年4月22日
本社	東京都豊島区東池袋3-15-15
資本金	103億3,429万8,875円 (2020年4月1日現在)
株式	東京証券取引所市場第一部上場 <コード:8084>
代表者	代表取締役社長 正垣 信雄
従業員数	<ul style="list-style-type: none">● 連結 : 1,279名● 単体 : 1,073名 (ともに2020年3月末現在)
売上高	<ul style="list-style-type: none">● 連結 : 2,300億円● 単体 : 2,039億円 (ともに2020年3月期)
関係会社	<ul style="list-style-type: none">● 子会社 : 13社 (連結10社 + 非連結3社)● 関連会社 : 1社 (持分法適用)● その他の関係会社 : 1社 (三菱電機株式会社)

当社グループの歩み

創業から現在

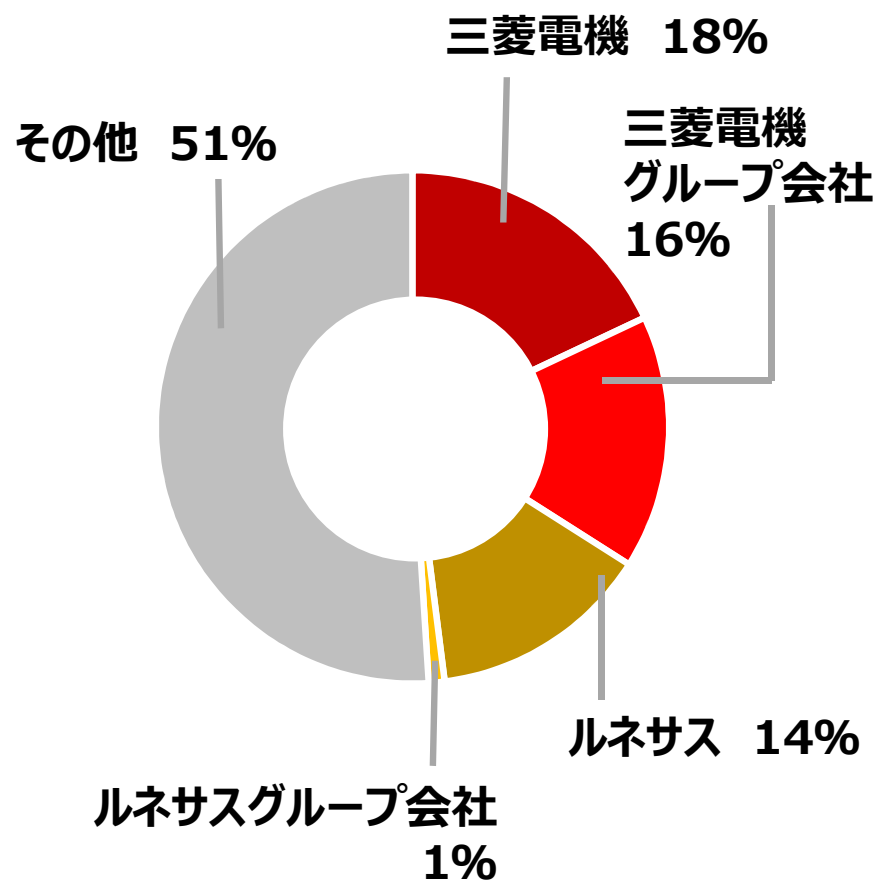
2017年に創立70周年を迎えました



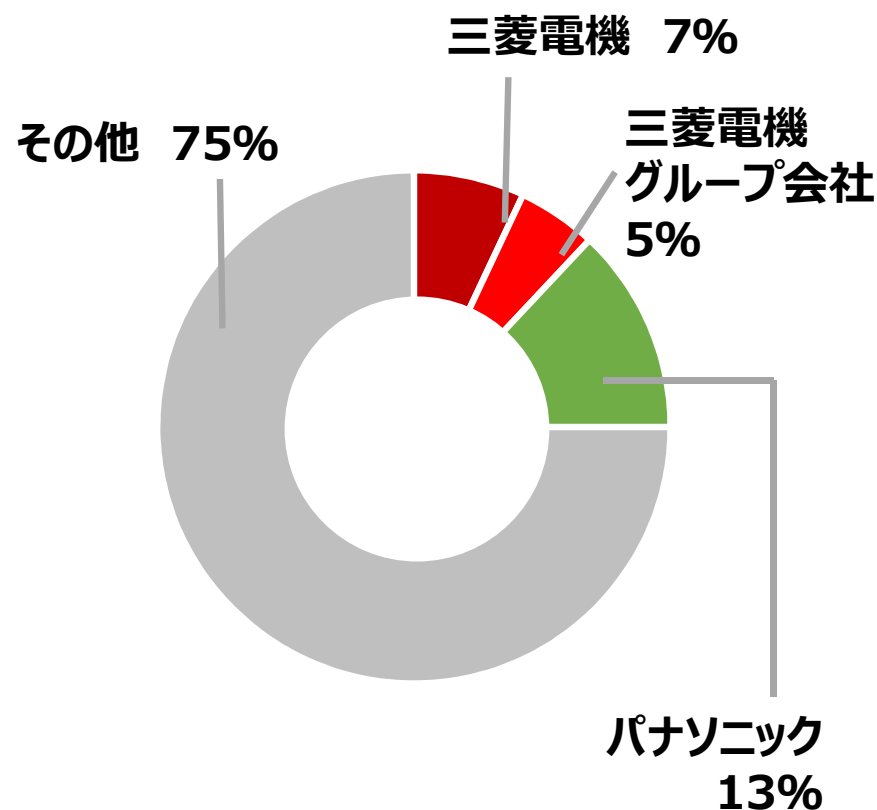
仕入先・販売先の状況

仕入先では三菱電機系とルネサス系、販売先では三菱電機系とパナソニックが比較的大きな取引シェアを持つものの、その他の構成比がともに過半を占める

仕入先別の構成比（仕入額ベース）

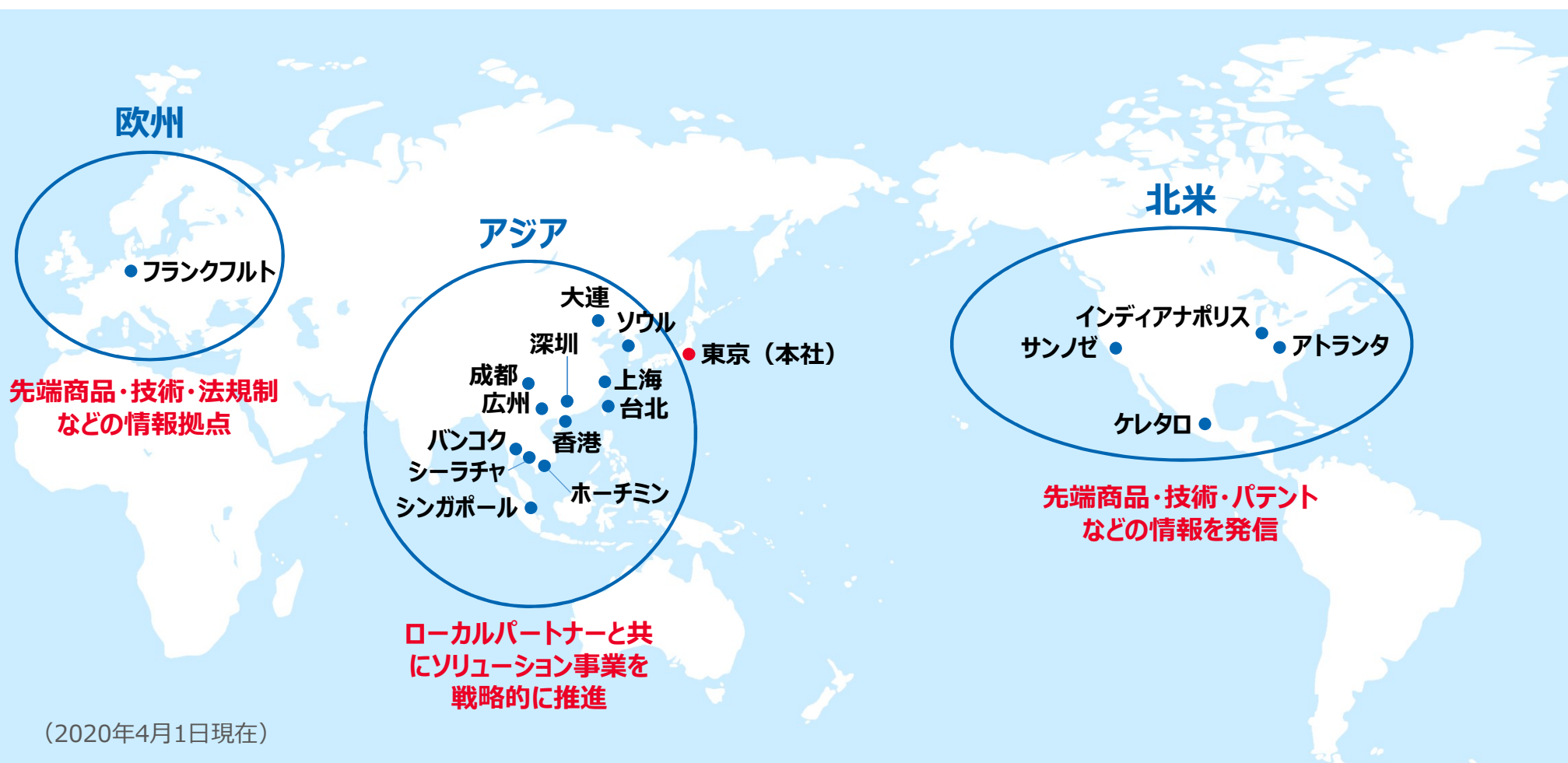


販売先別の構成比（販売額ベース）



グローバル展開の状況

海外9カ国・地域に設置した現地法人を中心に、ブランチ等を含め計47拠点を展開
域内市場を俯瞰した戦略一元化と強固なネットワーク間連携により、グローバル体制を構築



FAシステム品、冷熱システム品、ICT施設システム品、エレクトロニクス品の仕入・販売
および各事業に付帯するサービスを提供

セグメント別 売上高（外円） および営業利益（内円）

エレクトロニクス

【売】 1,461億円 / 63.5%
【営】 21.9億円 / 38.4%

- 電子デバイス
- 産業システム など



- ビルシステム
- 情報通信 など
 - ・情報ソリューション
 - ・セキュリティソリューション
 - ・画像・映像ソリューション

ICT施設システム

【売】 109億円 / 4.8%
【営】 6.2億円 / 11.0%

【売】 414億円 / 18.0%
【営】 13.1億円 / 23.0%

FAシステム

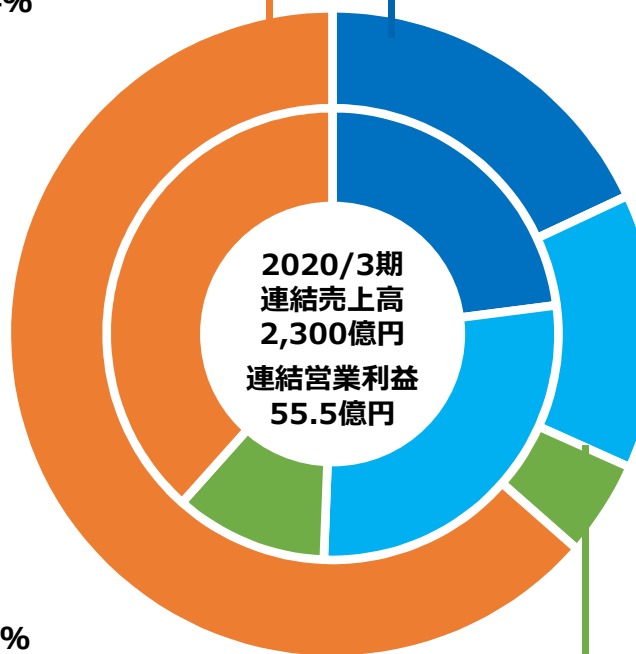
- FA機器システム
- 産業メカトロニクス
- 縫製機器 など



- 空調設備
- 住設備
- 低温応用設備
- クリーンルーム設備工事
- 産業冷熱システム など

【売】 315億円 / 13.7%
【営】 15.8億円 / 27.6%

冷熱システム



※売上高は億単位で切り捨て、営業利益は千万単位で切り捨て



2. 業績・財務の状況



～ 2020年3月期 決算の概要 ～

【市場・業界環境】

- 建設関連などの設備需要は好調に推移
- 半導体製造装置や工作機械などのFA関連が低調
- 自動車関連はADAS（先進運転支援システム）関連好調も
新型コロナウイルス感染拡大により市場が急減速
- スマートアグリ事業（植物工場）の需要は旺盛、好調に推移

【業績・成果】

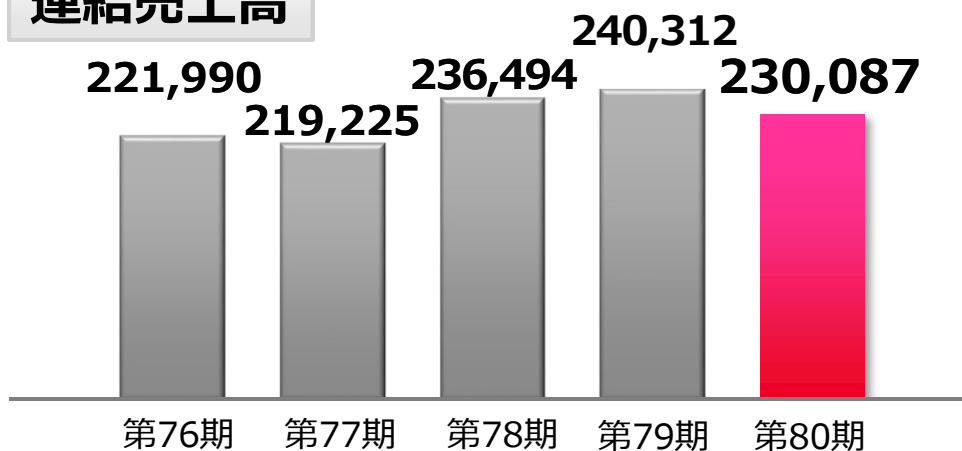
- 2020年3月期は前年度比減収増益
- 新規事業立ち上がりにより、当期純利益は過去最高益

決算サマリー（連結）

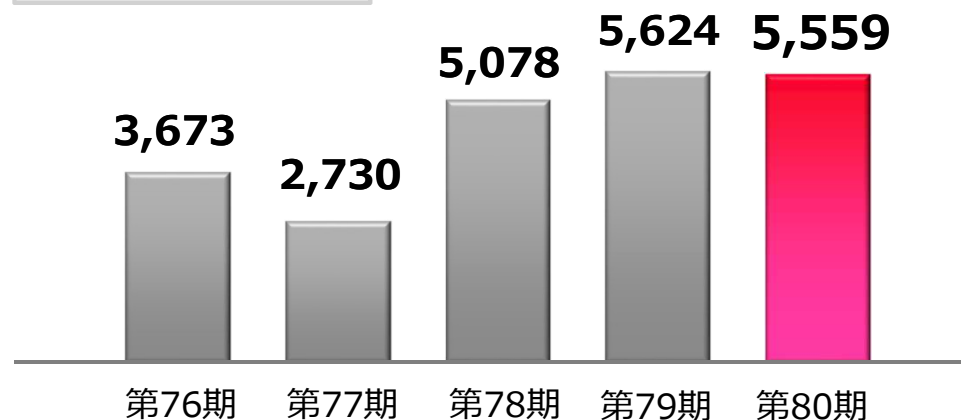
	2019/3期 (百万円)	2020/3期 (百万円)	増減率 (%)
売上高	240,312	230,087	△4.3
売上総利益	25,139	25,428	+1.2
営業利益	5,624	5,559	△1.2
経常利益	5,648	5,758	+1.9
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,731	3,860	+3.4

最近5年間の推移

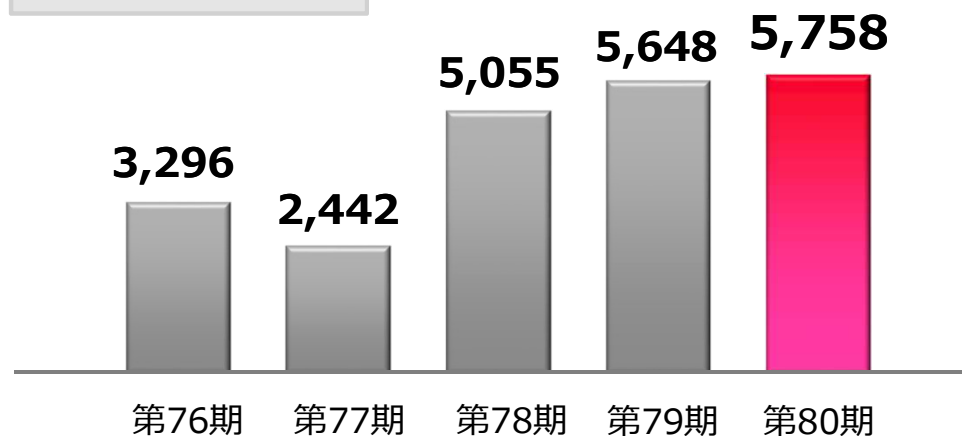
連結売上高



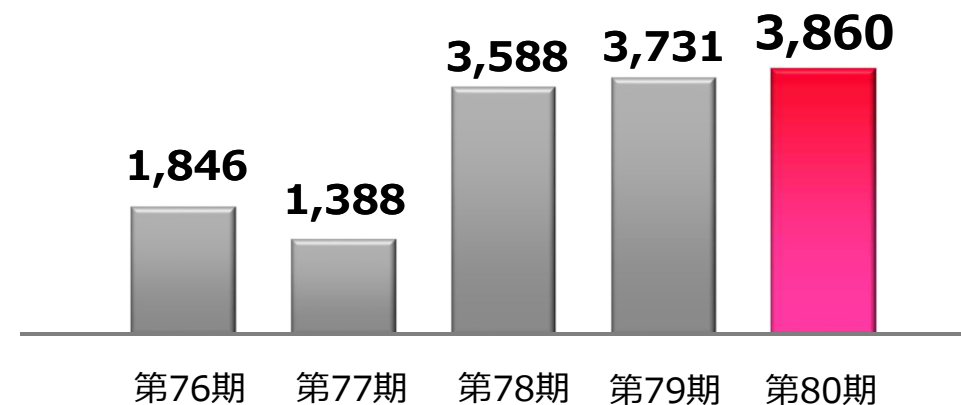
連結営業利益



連結経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益

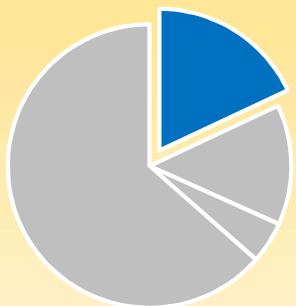


セグメント別の業績動向 1/5

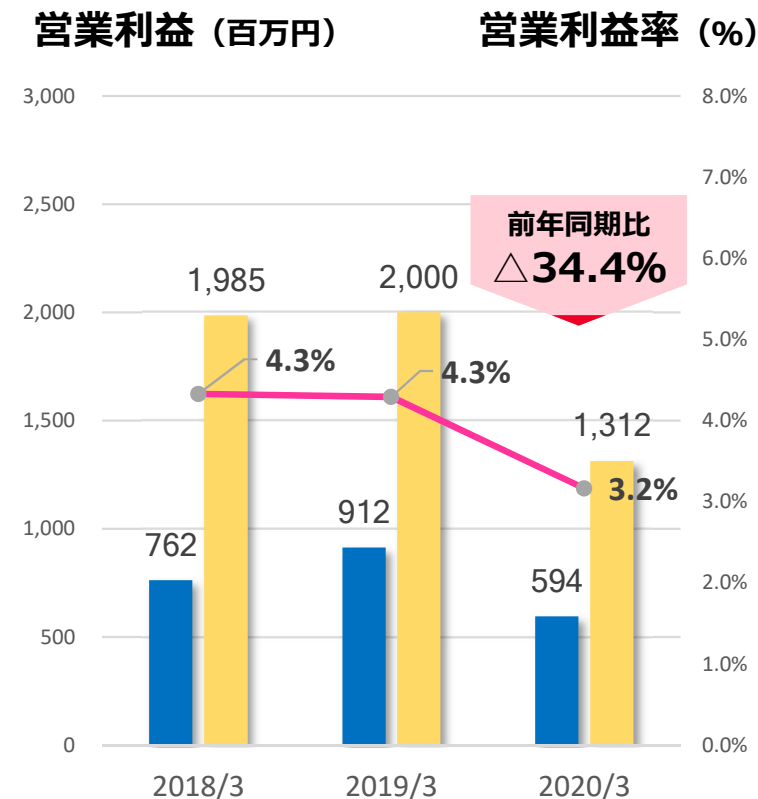
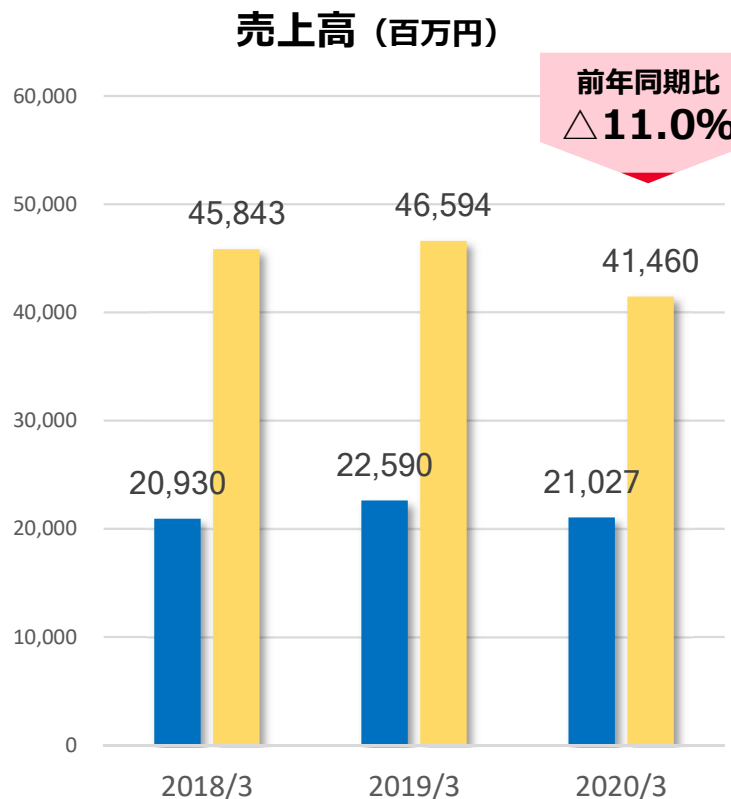
FAシステム

2020年3月期
売上高構成比

18.0%



■ 2Q ■ 通期 — 利益率



主なポイント

- 米中貿易摩擦、スマホ・半導体不況の長期化の影響大
- 半導体・液晶関連製造装置、工作機械、実装機向け低調
- 自動車関連の設備投資案件が鈍化

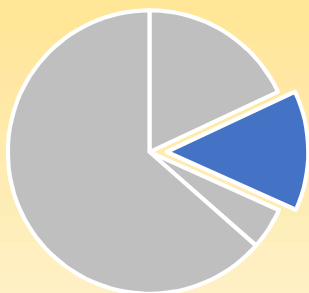
注：2019/3期より、セグメント利益（営業利益）から全社費用（セグメントに帰属しない新規事業開発費用）を除いております。
2018/3期については遡及修正した数字を掲載しております。以下、同様。

セグメント別の業績動向 2/5

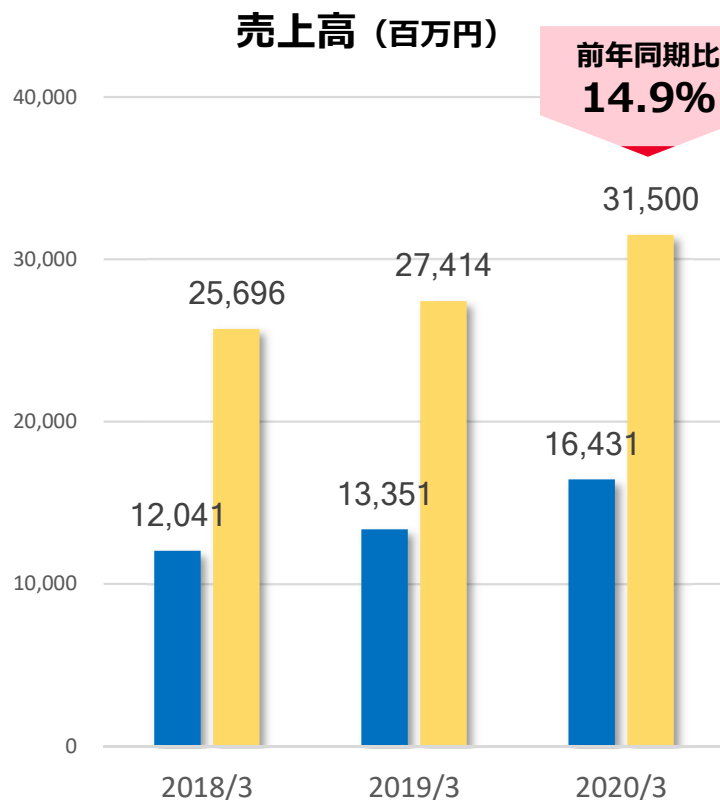
冷熱システム

2020年3月期
売上高構成比

13.7%



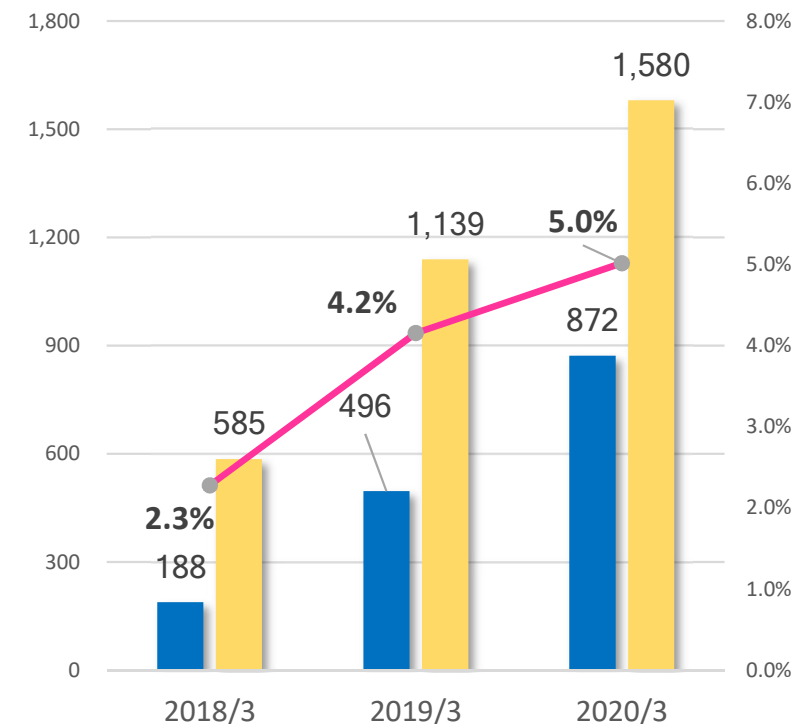
前年同期比
+38.7%



■ 2Q ■ 通期 — 利益率

営業利益 (百万円)

営業利益率 (%)



主なポイント

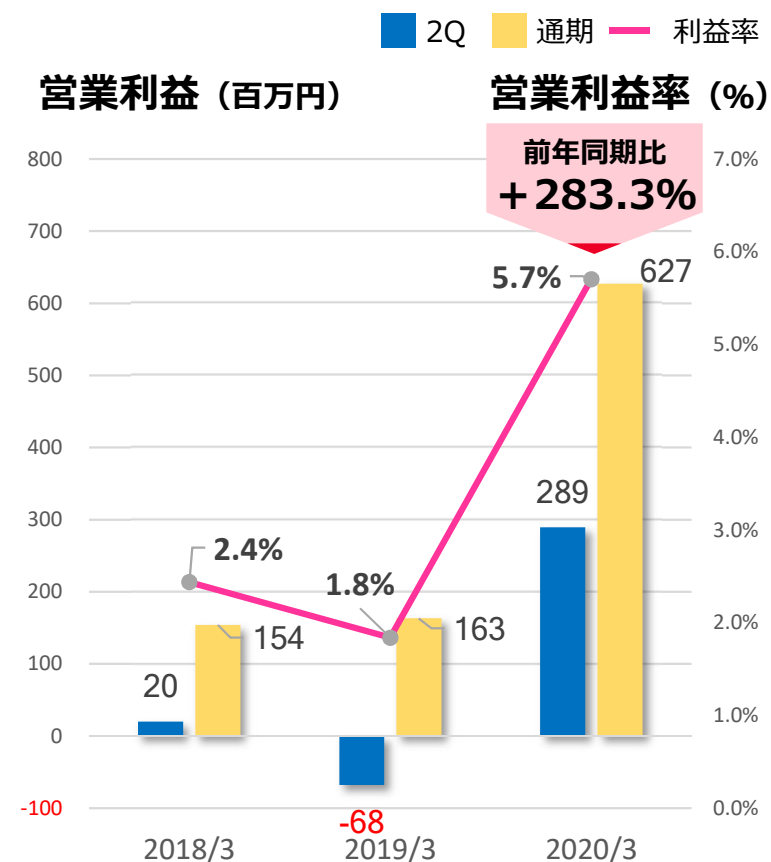
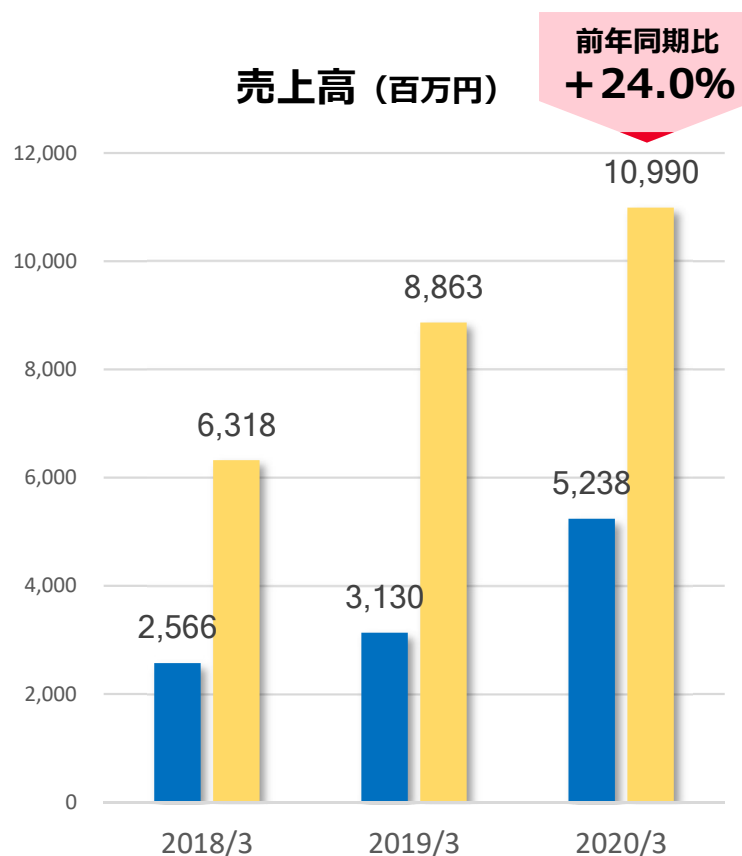
- 再開発案件の進展による設備業者向け機器販売が好調
- 冷凍・冷蔵の低温分野、機器卸店向けも好調に推移
- 学校空調案件が好調
- 暑熱対策分野で販売拡大

セグメント別の業績動向 3/5

ICT施設システム

2020年3月期
売上高構成比

4.8%



主なポイント

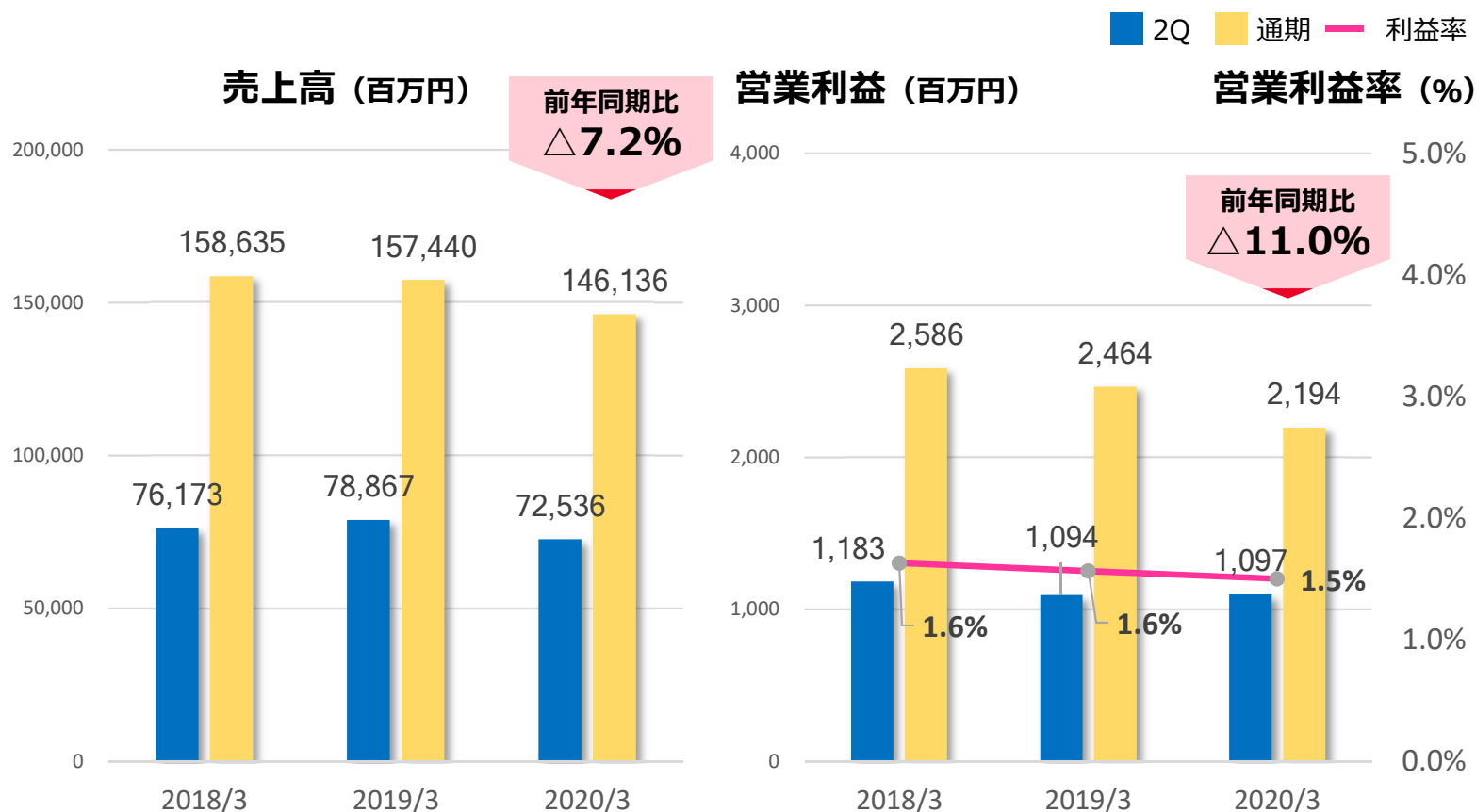
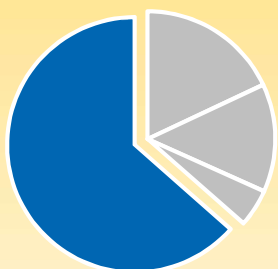
- 情報通信分野・医療分野におけるICTネットワーク関連機器が好調に推移
- ビルシステム分野では大都市を中心に建設市場の好況等からビル設備関連が堅調に推移
- スマートアグリ分野の大型植物工場案件の計上により、大幅な増収に貢献
- 全ての事業分野で増益を確保したため、大幅増益

セグメント別の業績動向 4/5

エレクトロニクス

2020年3月期
売上高構成比

63.5%



主なポイント

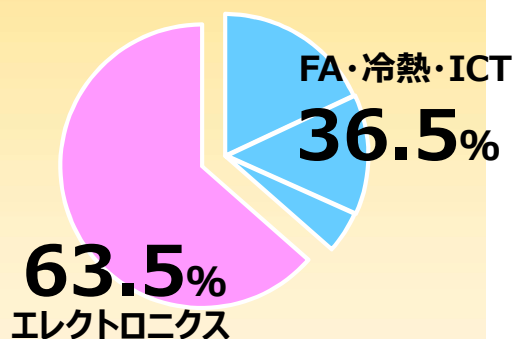
- 【国内】 ● 自動車関連の国内・欧州向け生産は軟調
- ADAS(先進運転支援システム)関連およびエアコンなどの空調機器が前半は堅調に推移
- 産業機器関連は、米中貿易摩擦などの影響もあり、中国向け工作機械・半導体製造装置等FA関連ビジネスが低調
- 【海外子会社】 ● 中国地域におけるエアコン関連向け販売が好調推移も産業機器関連向け販売が低調

セグメント別の業績動向 5/5

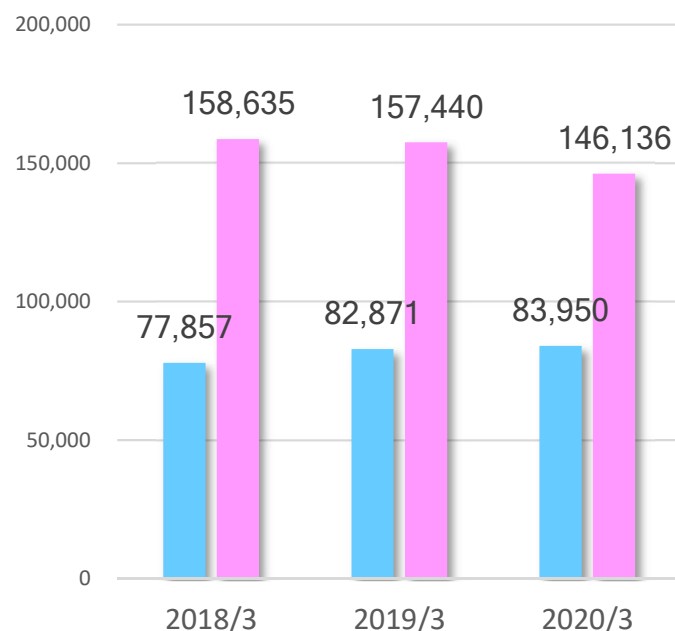
エレクトロニクスとFA・冷熱・ICTとの比較

FA・冷熱・ICT
エレクトロニクス

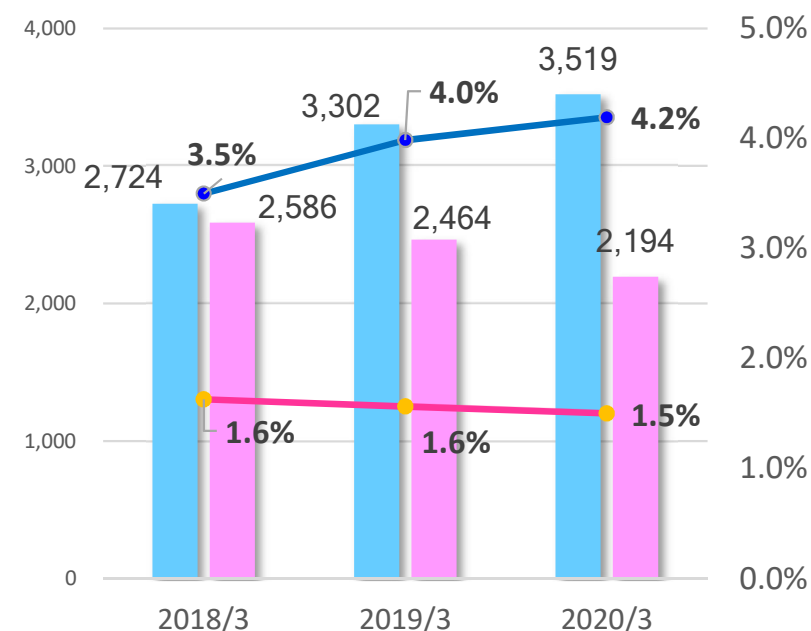
2020年3月期
売上高構成比



売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



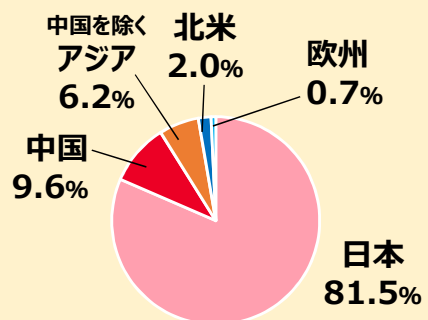
主なポイント

- エレクトロニクスは営業利益率を保持するものの、減収により減益。
- FA・冷熱・ICTはソリューション活動の成果で、付加価値が向上し、利益率・額ともに増えている。

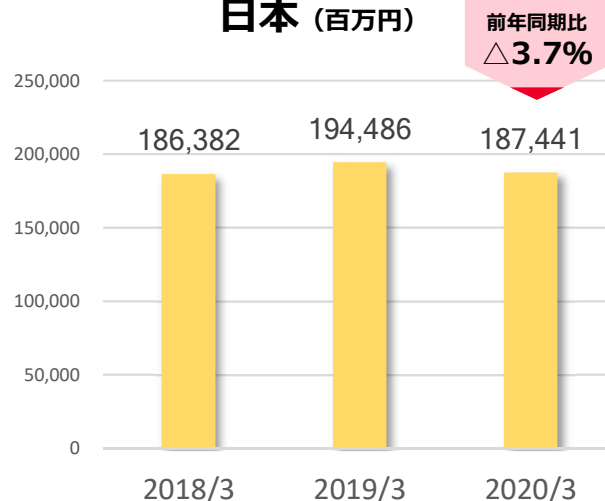
地域別の売上高推移

地域別売上高構成比

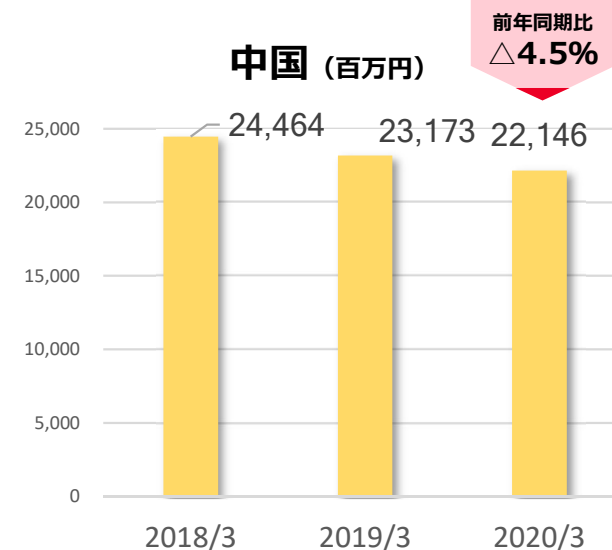
2020年3月期



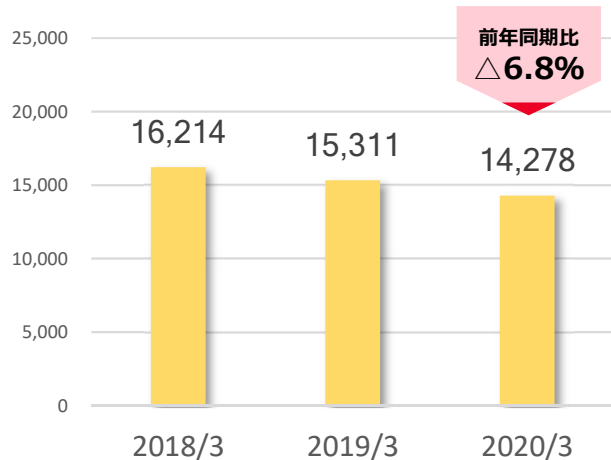
日本 (百万円)



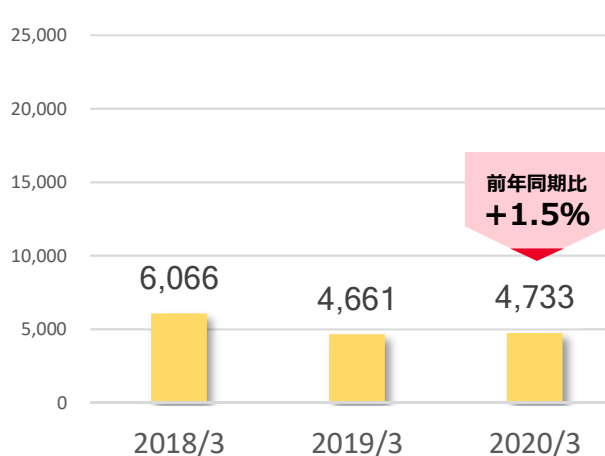
中国 (百万円)



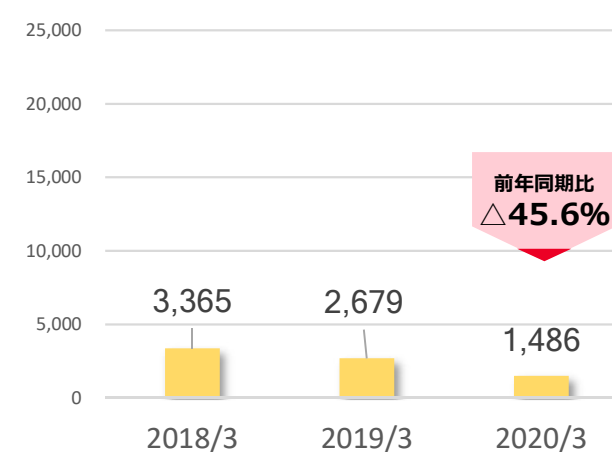
中国を除くアジア (百万円)



北米 (百万円)

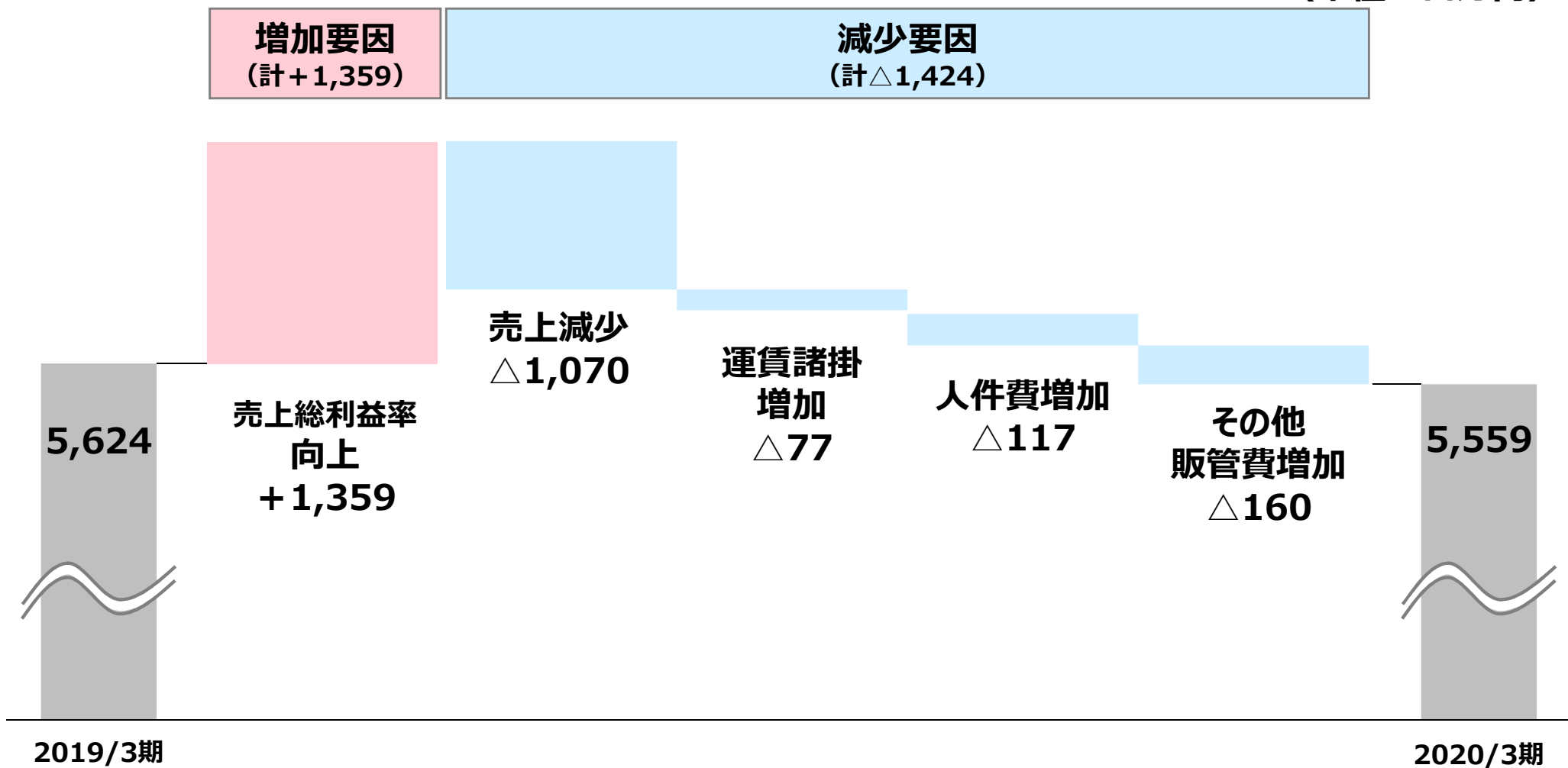


欧州 (百万円)



営業利益の増減要因

(単位：百万円)



財務の状況（連結）

【財政状態】

	2019/3末 (百万円)	2020/3末 (百万円)	増減
総資産	132,729	128,304	△4,424 百万円
負債合計	67,013	60,746	△6,266 百万円
純資産	65,716	67,557	+1,841 百万円
自己資本比率 (%)	49.4%	52.5%	+3.1 point

【キャッシュ・フローの状況】

	2019/3期 (百万円)	2020/3期 (百万円)
営業活動CF	4,479	5,938
投資活動CF	△686	△518
財務活動CF	△563	△2,281
現金及び現金同等物	17,107	20,165

2021年3月期 通期業績見通し (連結)

	2020/3期 実績 (百万円)	2020/9期 予想 (百万円)	前年同期比 増減率 (%)	2021/3期 予想 (百万円)	前年同期比 増減率 (%)
売上高	230,087	90,000	△21.9	209,000	△9.2
営業利益	5,559	200	△92.8	3,100	△44.2
経常利益	5,758	200	△93.0	3,100	△46.2
親会社株主に帰 属する 当期純利益	3,860	150	△92.3	2,200	△43.0

主なポイント

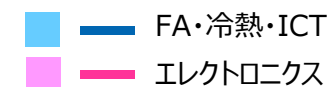
- 新型コロナウイルスの影響は上期に限定、業績回復は下期と想定
(影響額 上期売上高250億円程度、営業利益20億円程度と予想)

2021年3月期 セグメント別予想 (連結)

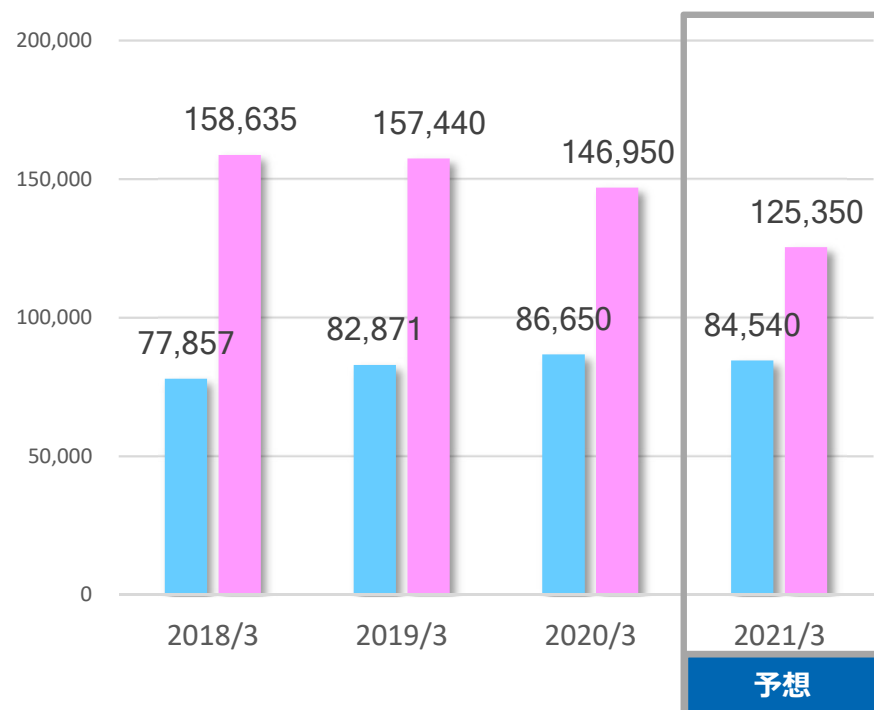
		2020/3期実績 (百万円)	2020/9期予想 (百万円)	2021/3期予想 (百万円)	増減率 (%)
FAシステム	売上高	41,460	18,800	43,000	3.7%
	営業利益	1,312	180	1,250	△4.8%
年度後半より半導体関連市場の回復、新技術普及や自動車産業設備投資拡大・回復を見込む					
冷熱システム	売上高	31,500	13,100	29,000	△8.0%
	営業利益	1,580	250	930	△41.2%
東京五輪の下振れ影響も受けるが、冷凍・冷蔵、試験環境等産業冷熱分野及び暑熱対策分野の拡大を見込む					
ICT施設システム	売上高	10,990	6,100	11,650	6.0%
	営業利益	627	455	630	0.04%
製造業において、設備導入遅れが予想されるがスマートアグリ事業やヘルスケア事業は概ね順調と予想					
エレクトロニクス	売上高	146,136	52,000	125,350	△14.3%
	営業利益	2,194	△565	530	△75.9%
車載向け市場に影響が残るものの、下期は前年比並みに復調、特にFA産業向けで大きく挽回を見込む					
全社費用	営業利益	△156	△120	△240	-
	セグメントに帰属しない新規事業開発費用				
合計	売上高	230,087	90,000	209,000	△9.2%
	営業利益	5,559	200	3,100	△44.2%

セグメント別の業績予想

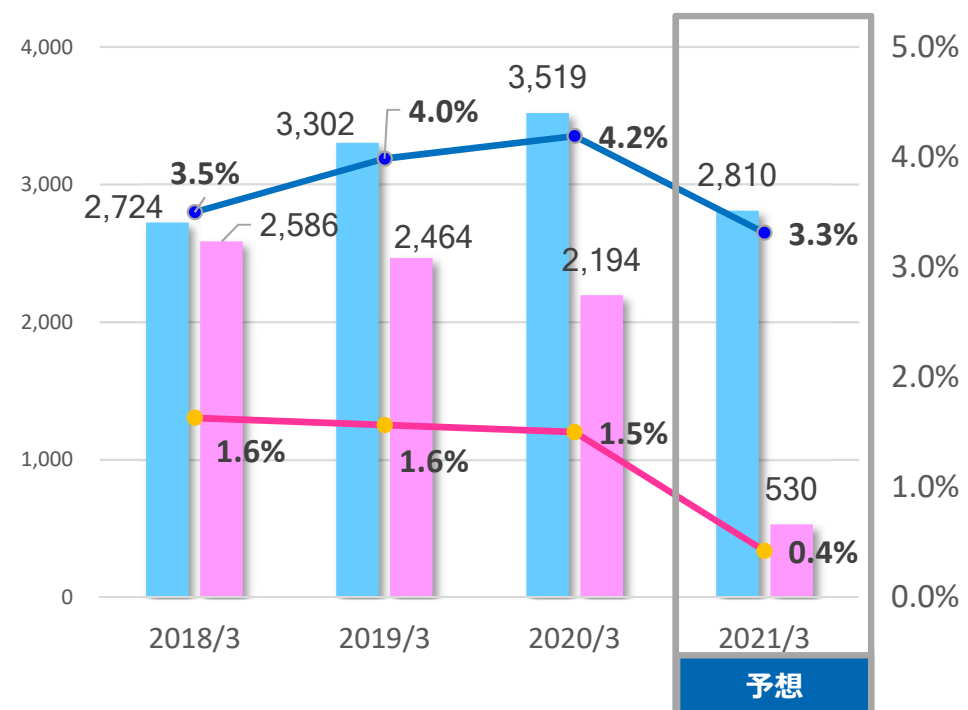
エレクトロニクスとFA・冷熱・ICTとの比較



売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



主なポイント

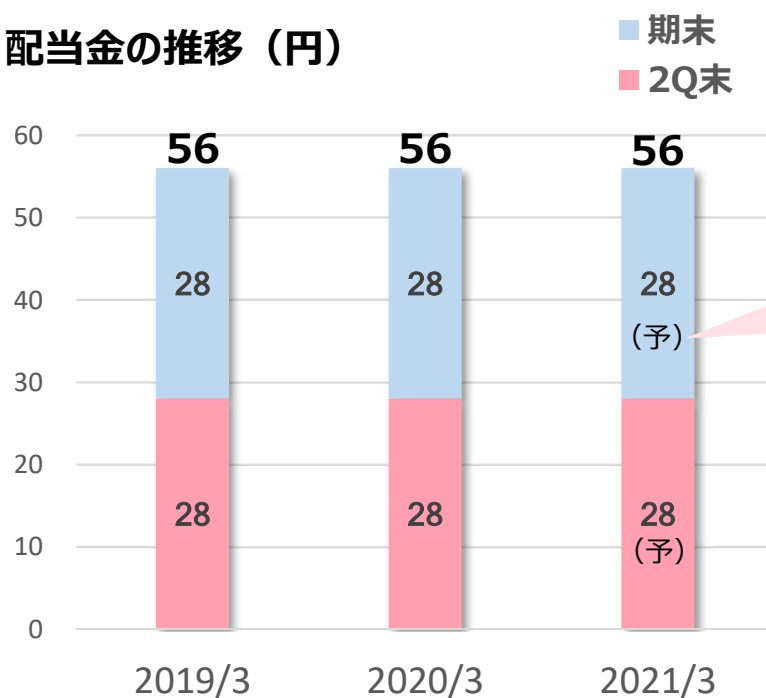
- 新型コロナウイルスの影響は上期に限定、業績回復は下期と想定
(影響額 上期売上高250億円程度、営業利益20億円程度と予想)

【配当政策】

- 経営基盤・財務体質の強化のための内部留保の拡充と事業拡大のための投資財源への活用を基本として、株主各位への適正な利益還元を実施
- 配当については、各事業年度の連結業績および中長期的なグループ戦略等を勘案の上、利益還元を実施
- 自己株式の取得についても、株価の動向や財務状況を勘案のうえ実施する予定

【配当実績】

配当金の推移（円）



2021/3期 配当について

- 短期的な業績に連動するのではなく、中長期的な安定配当することを配当方針にしており、2021年3月期においては、新型コロナウイルスによる影響は上期にとどまり、下期には業績回復を想定していることから、前期同様と予想する。

配当性向	2019/3	2020/3	2021/3
	32.6%	31.5%	55.3% (予)



3. 今後の経営戦略



環境・安心・安全でサステイナブルな社会の実現に貢献

代理店、商社の枠を超えた事業創出会社として
新たな価値を生みだし続ける

3つの成長エンジン

1. 成長事業のビジネスモデル確立と次世代新規ビジネスの創出
2. 基幹中核事業における生産性の向上
3. 事業推進基盤の強化



「ICHIGAN 2024」戦略の柱

1. 成長事業のビジネスモデル確立と次世代新規ビジネスの創出

事業・分野	重点施策
ネットワーク事業	◇IoT事業の加速、セキュリティ事業の開拓、FlaRevoビジネスの拡大
スマートアグリ (植物工場)事業	◇独自の付加価値追求、新事業開発、国内・外への次世代農業分野の展開
ヘルスケア事業	◇メディカル関連事業の強化、“未病領域”新事業の創出

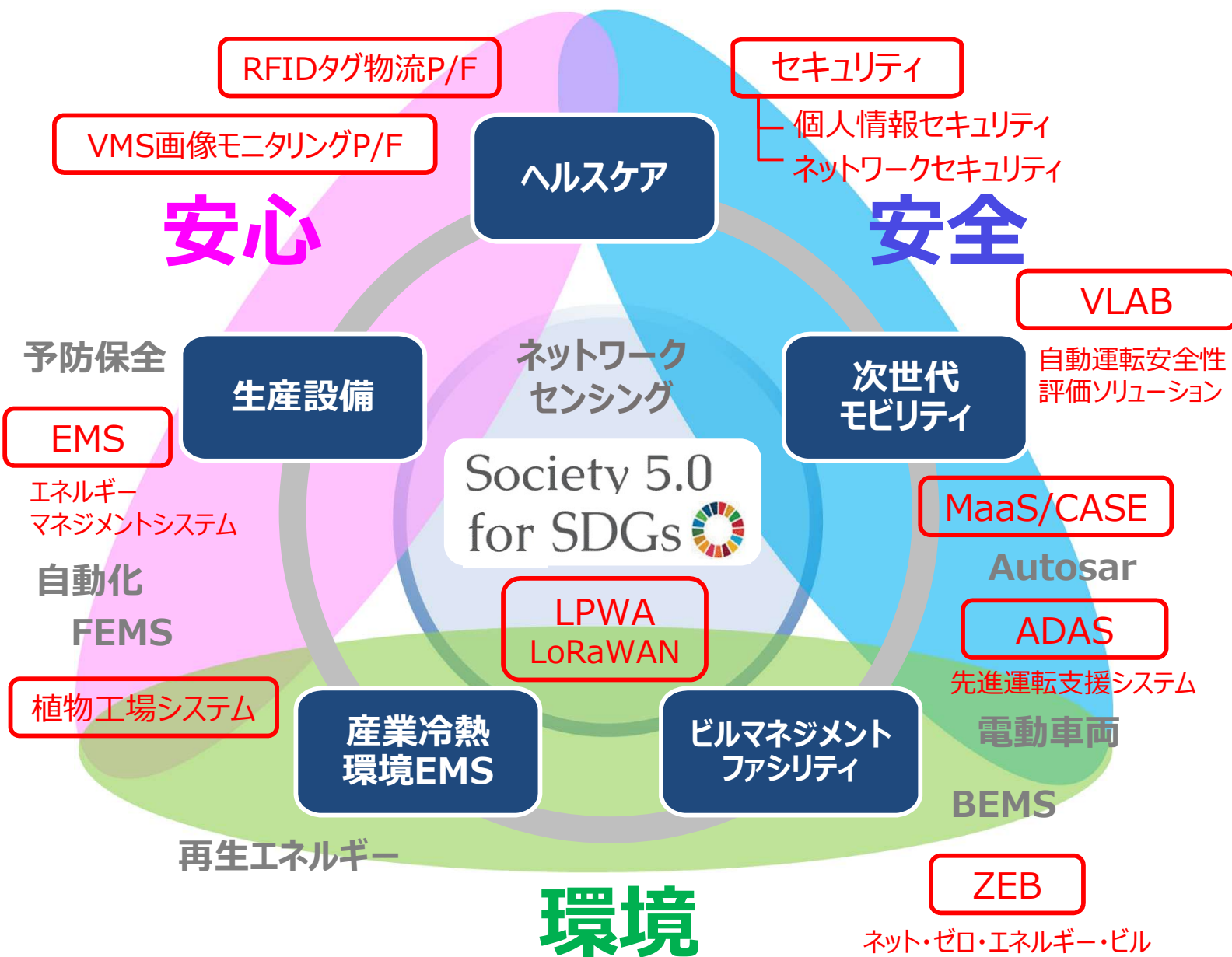
2. 基幹中核事業の生産性向上

中核事業	重点施策
F A 事業	◇新事業・ビジネスモデルの創出、コア事業の領域拡大、海外事業の拡大
冷熱事業	◇エンジニアリング事業の強化、基幹事業の継続、注カアイテムの強化、海外市場の開拓
ビル事業	◇“ビルまるごと”コーディネーター、昇降機事業の維持
デバイス事業	◇高付加価値新規事業の創出、事業ポートフォリオ化、リスクヘッジ推進

3. 事業推進基盤の強化

- ・グローバル人材の育成
- ・グループガバナンスの強化
- ・デジタルトランスフォーメーションの推進

注力推進分野と2024年度業績目標



2024年度業績目標
売上高 2,600億円
営業利益 100億円以上
営業利益率 3.8%
ROE 8.0%

「冷熱システム」「FAシステム」「電子デバイス」の製品・ノウハウを植物工場向けに最適化しIoTシステムに統合、運営効率の高い植物工場システムの提供ビジネスです。



IoT

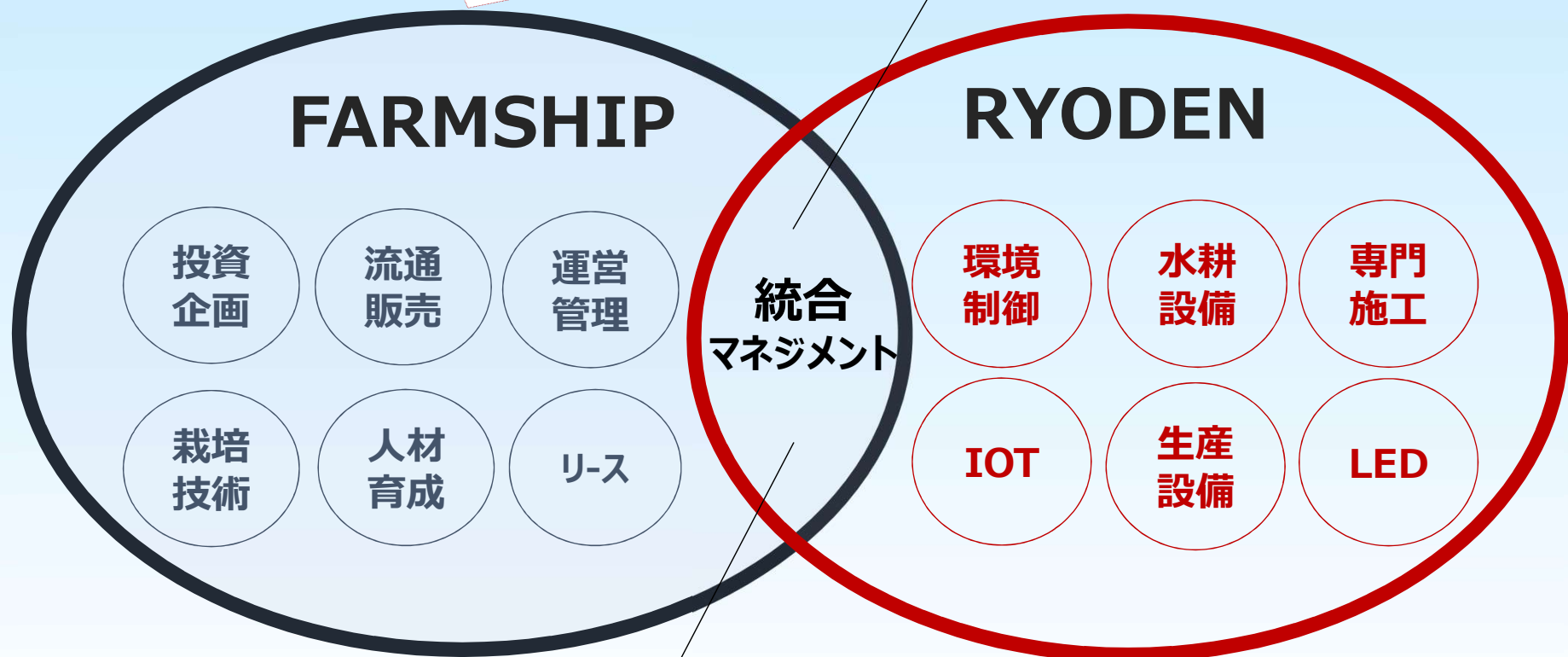
〈 業務内容 〉

- 植物工場の基本設計・機材設備コンサルティング
- 植物工場専用機器開発 自社開発LED・計装システム・生産設備システム
- 植物工場 元請一括施工 管・電気・水耕・計装・断熱工事等

スマートアグリ事業②：協業スキーム

難易度の高い植物工場の収益化を実現する
技術とサービスを有する企業

植物工場事業投資における
ソフトとハードを連結し提供 お客様価値向上へ



大規模投資を実現する国内で
唯一の事業モデルを両社で確立

◆ FlaRevo Network

“Flarevo CONNECT”...データと映像の連動によりビジネス価値を生む



「現場とつながる。現場が見える」

- ・取り逃したくない瞬間や、保存しておきたい映像の取得を自動化
- ・パソコン映像も、カメラ同様にライブ再生・録画が可能

従来の監視カメラでは成しえなかった新たな価値を、お客様に提供

“FlaRevo CLIP”...更なるビジネスカメラ映像の活用を推進



「ビジネスカメラ映像は企業の財産」

- 複雑な操作は不要で自動で必要な情報を長期保存
- 映像は、専用のWEBページを通じて共有が可能
- お客様のご指定の環境で稼働（オンプレミス）

企業にとって財産であるビジネスカメラ映像をより活用できる仕組みを提供

RFIDタグデータネットワークシステム

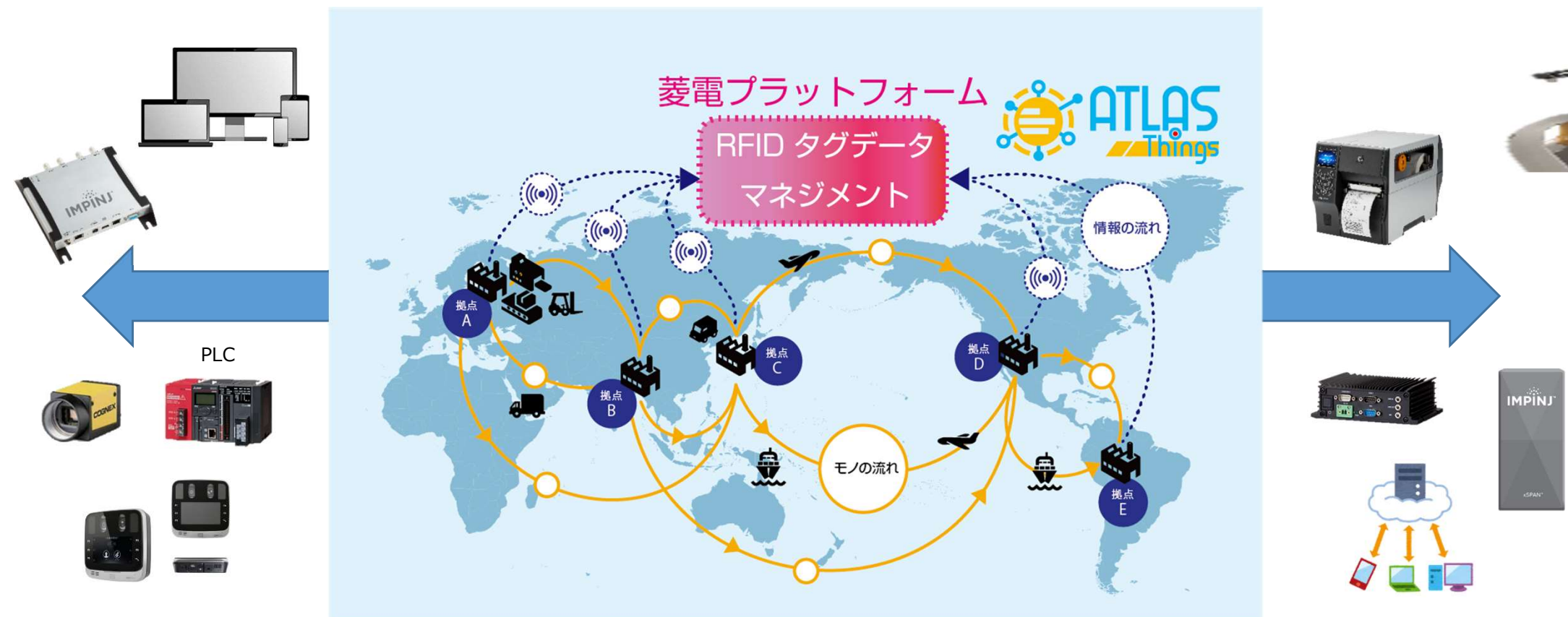


◆ ATLAS-Things

※ATLAS-Thingsは当社の商標登録です。

RFID、バーコードに代表される自動認識技術を活用したクラウドサービス

- ▶ 自動車業界、製造現場でモノの出入（動態管理）を見える化
- ▶ 梱包単位で階層別管理を実現（ISOなど国際規格に準拠）
- ▶ いつでも、どこでも安全なシステム環境を実現



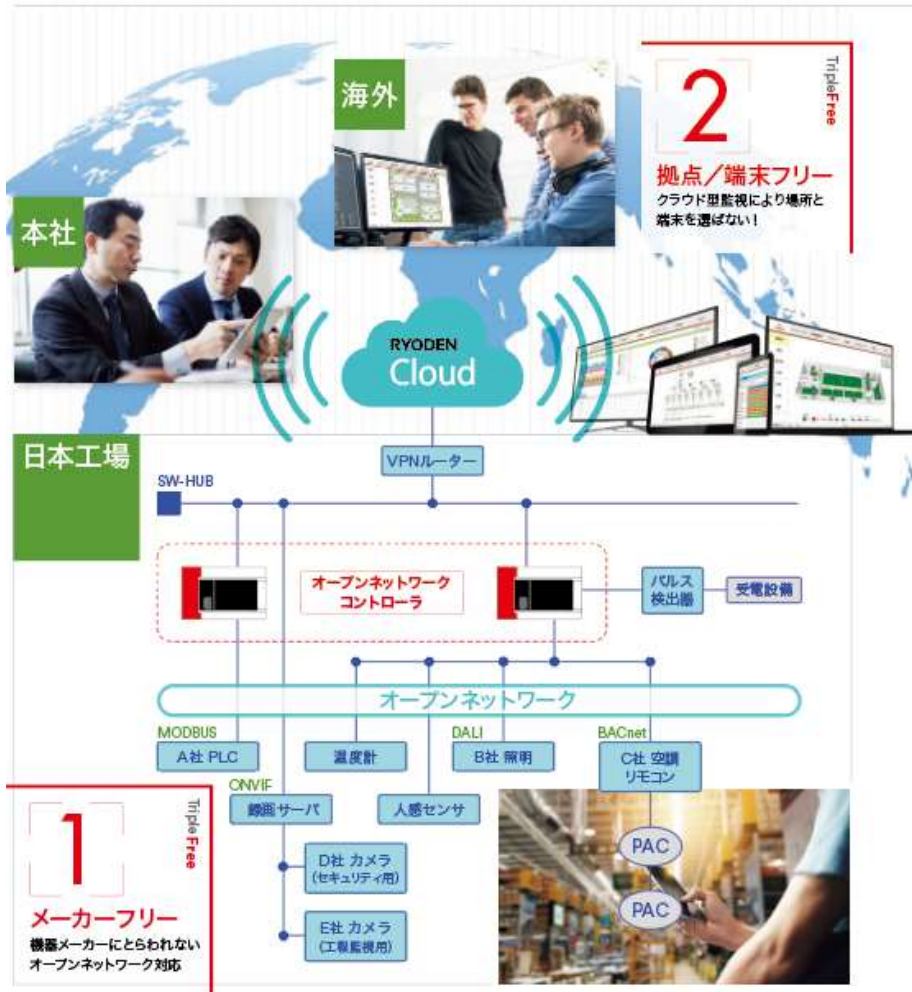
クラウド型統合管理システム

◆ REMCES (レムセス)

Triple Free

空調・照明・監視・省エネのエキスパート

IoTを最大限に活用した最新大型植物工場をも手掛ける技術商社「菱電商社」が自信をもってご提案する「クラウド型統合監視システム」です！



工場ごとにわかりやすい インターフェイスデザインを！

【監視基本画面】

施設レイアウトをグラフィカルに表現。タブで各監視項目を選択します。画面構成については相談のうえ構築致します。

【ログ】

各種情報の履歴を管理。警報に対するトラブルシューティングをマニュアル化し、ドライブ上にアップロードしておくことで誰でも復旧対応が可能！



【ユーティリティ監視】

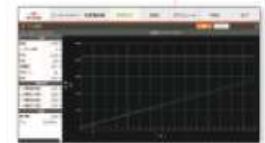


【電力監視】



カスタマイズ例

【スケジュール】



【アモンド監視】



【EMS】

時間・日・月・年毎のエネルギー監視が可能です。原単位管理も容易。急な製品変更、ライン変更にも、電力測定箇所をドラッグ&ドロップにて操作し柔軟に対応！



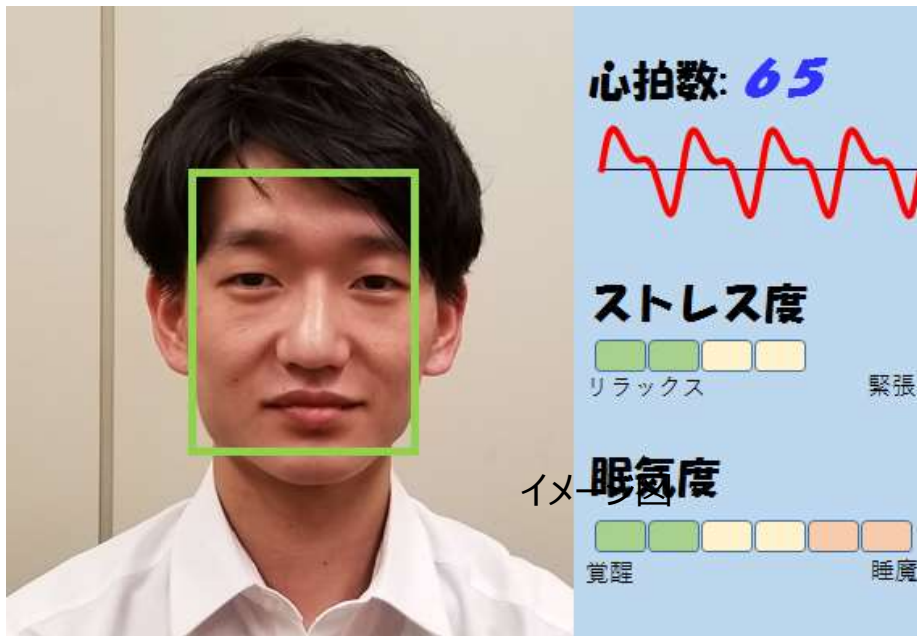
【FMS】

日常点検項目をお客様要望に応じて作成。CSV出力が可能です。iPadなどを活用した日常点検作業にも応用可能です。

◆ ADAS (先進運転支援システム)

非接触心拍測定ソリューション

カメラ撮影による非接触心拍測定技術

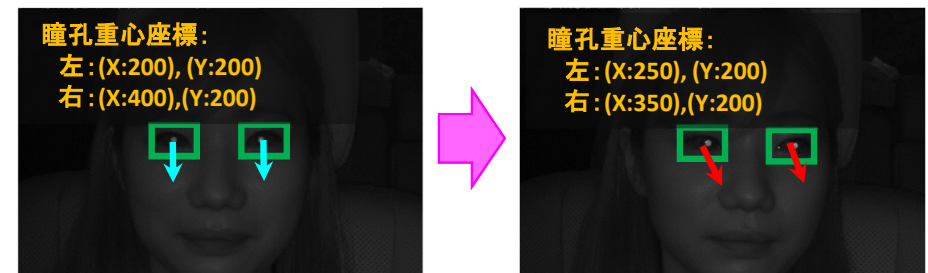


- ・カメラ映像から脈波を測定可能
- ・R-CAR(組み込みデバイス)での実現
- ・車体振動、顔ゆれ等でも安定測定(顔追従機能)
- ・ストレス度・眠気等の自律神経指標判断に対応

ドライバーモニター評価ソリューション

ドライバーモニター技術

- ・ドライバーの顔認識機能
- ・ドライバーの視線方向検知機能



近赤外線LED搭載カメラモジュール



Ability 5102

- ・NIR-LED 850nm , 940nm
- ・SENSOR ON Semi AR0135

【パートナー】静岡大学、Ability, ON Semi, 株式会社サニー技研

環境ビジョン制定

2020年4月1日、2030年までの環境ビジョンを制定しました。

菱電商事グループ環境ビジョン

菱電商事グループは 2030 年までに

「脱炭素社会への
取り組みを強化する」

【重点取り組み】

- ・ 電力使用に関する温室効果ガス排出ゼロへ挑戦する
- ・ ZEB 等の環境負荷軽減に寄与するソリューションを提供する

「製品ライフサイクル思考に
貢献する環境ソリューションを
創出し環境価値を増大する」

菱電商事グループは
全ての事業活動を通じ
持続可能な開発目標への
貢献を目指します



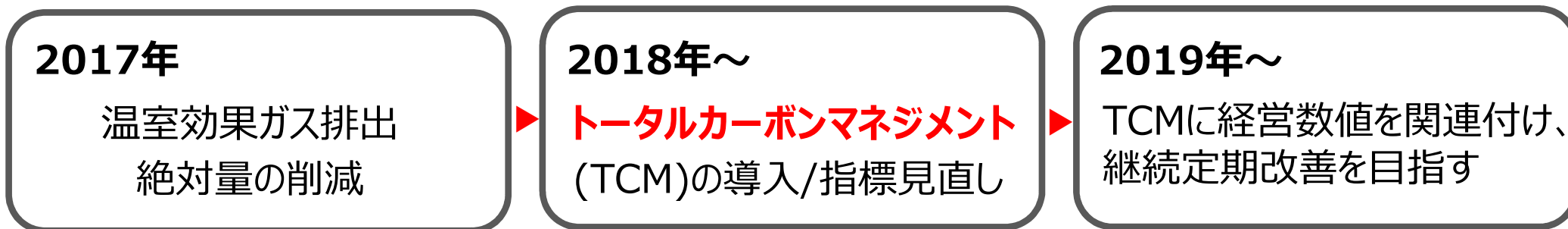
菱電の3つの強み：

グローバル
ソリューション

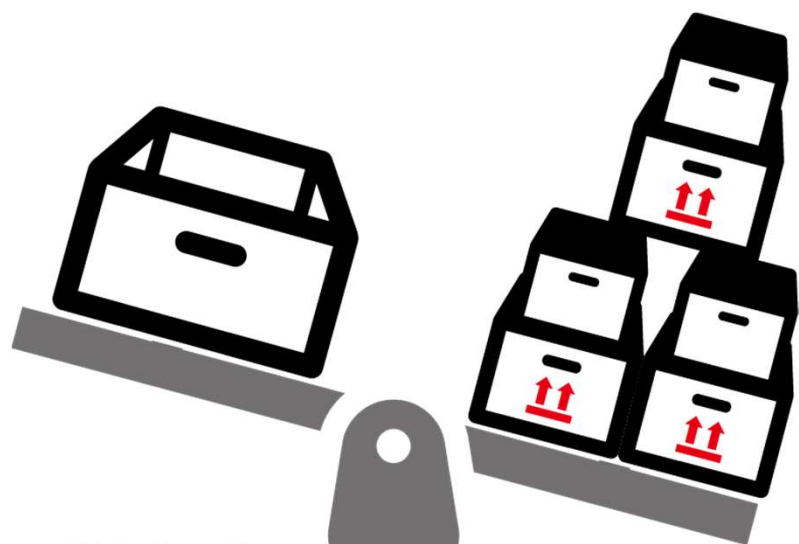
技術力

グローバル
ネットワーク

環境目標（評価尺度）の変化



◆トータルカーボンマネジメントとは



温室効果ガス
排出量(A)
※在庫廃却含む

2019年度累計実績

1,663.25t-CO₂

温室効果ガス排出
削減貢献量(B)

2019年度累計実績

7,566.5t-CO₂



当社の事業活動で排出する温室効果ガス排出量(A)より温室効果ガス
排出削減貢献量(B)を大きくすることを目標とした環境活動です。

温室効果ガス排出量(A)

環境に負荷(-)

電力 在庫廃却品の
燃料消費 生産時排出量

温室効果ガス排出削減貢献量(B)

環境に有益(+)

販売した製品使用時の
温室効果ガス排出削減貢献量

※参考：当社が排出する温室効果ガス排出量はサプライチェーン全体の僅か0.015%

生物多様性に配慮した社会貢献活動

当社の創立60周年から生物多様性に配慮した社会貢献活動に取り組んでおり、13年目を迎え、2019年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止せざるを得ない事業所がありました。世界21ヶ所で延べ599名が参加しました

<トピックス>

- 2017年度行政からの表彰を受ける（本社・東京支社・菱商テクノ）
→長年にわたる清瀬松山緑地保全市域での環境保全活動が評価され清瀬市から感謝状を拝受。
- ★ 2018年度は、米国RUS-GA(アトランタ)・中国RSH-DL(大連)・中国RSH-GZ(広州)および韓国RKR(ソウル)が初参画





菱電商事株式会社

〒170-8448 東京都豊島区東池袋3-15-15

総務部

e-mail:ryoden_ir@mgw.ryoden.co.jp

TEL:03-5396-6111

FAX:03-5396-6448

資料の取り扱い上のご注意

このプレゼンテーションで述べられている業績計画等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。その要因のうち、主なものは以下のとおりです。

- ・主要市場（日本、アジア等）の経済状況、消費動向及び製品需給の急激な変動
- ・ドル等の対円為替相場の大幅な変動
- ・資本市場における相場の大幅な変動等